

## [目次]

英彦山門前町同好会(添田町).....	1・2
枝川内あじさい祭り実行委員会(豊前市).....	3・4
県庁お知らせ掲示板.....	4

編集・発行 福岡県企画・地域振興部 市町村支援課  
〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7  
TEL:092(643)3072 FAX:092(643)3078

### ■ 英彦山門前町同好会(添田町)

## 歴史・文化を継承し、新たな取組へ挑戦

### ～英彦山門前町同好会(添田町)～

福岡県中央部筑豊地域の東南部に位置し、県内でも屈指の面積を誇る添田町。日本三大修験霊場として知られる「英彦山」をはじめ、三つの丘状地形の峰をもつ「鷹巣山」などの山々に囲まれており、毎年県内外から多くの登山者や英彦山神宮などへの参拝者が訪れます。また、国内で初めて指定された「耶馬日田英彦山国定公園」などの歴史的な文化財や神楽・獅子舞などの伝統芸能も現存しており、雄大な自然と歴史・文化あふれるまちとして知られています。

#### 先人が築いた歴史・文化をつなぐ

今から約500年以上前、英彦山では多くの山伏が厳しい修行を行っており、「坊」と呼ばれる住居で生活していました。英彦山には当時使われていた坊が現存しており、貴重な文化財として地元の人たちの手で大切に保存されてきました。

しかし、これらの文化財の維持管理は決して楽なものではなく、過疎化や担い手の不足などによって保存活動の存続が危ぶまれ「このままでは英彦山は衰退し、人が訪れなくなってしまう」といった声があがっていました。平成29年、こうした状況を立て直すため、先人が残した貴重な英彦山の歴史や文化を未来に継承し添田町の活性化につなげようと「英彦山門前町同好会」が結成されました。



▲山伏の衣装を身にまとい、英彦山の歴史を学ぶ参加者

「英彦山の復興を目標に、多くの人に知ってもらい、活性化につなげたい」そんな思いをもった約30人の有志が立ち上げた同会。今では、老若男女合わせて約80人の町内外の人が所属し、会長の松養榮貞（まつがい しげさだ）さんを中心に英彦山を守るために活動しています。主な活動は空き家になった坊の清掃・保全活動や英彦山の歴史などを学ぶ勉強会の実施などですが、最近では、体験型のイベントに力をいれており、あらゆる方法で英彦山の活性化に取り組んでいます。

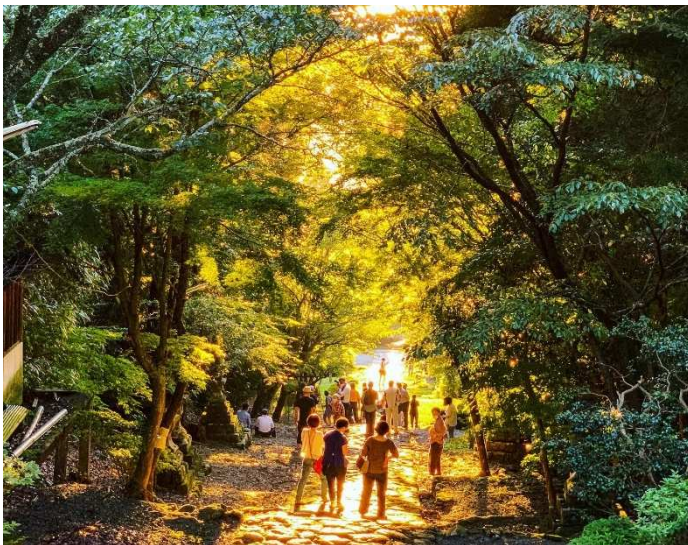
## 変化する継承の形

結成当時からさまざまな活動を行ってきた同会ですが、ここ数年は以前に比べ訪れる人が増え、年代も若くなっています。そのきっかけとなったのが「地域おこし協力隊(※1)」との出会いでした。2019年2月に地域おこし協力隊員として添田町に赴任した高山勇樹(たかやま ゆうき)さんは、添田町の活性化のため試行錯誤していました。その時、門前町同好会が英彦山を活用したイベントを開催しているとの話を聞き、互いの目的や課題を共有。英彦山でしかできない、英彦山だからこそできることを一緒に考えました。

その中で、坊を活用した宿泊体験のイベントに着目。築180年が経過してもなお生活ができるこの文化財を活用した体験を、さらに質の高いものへと変化させるため、「坊泊」を企画し、チラシの作成や周知方法、内容の見直しを行いました。



▲人目を惹くスタイリッシュなチラシ



▲参道が黄金色に染まる様子(英彦山光の道)

(※1) 地域おこし協力隊  
人口減少や高齢化が進む地方へ都市部の人が移住し、地域活性化に向け支援を行う制度

## そして、衆衆へ

その結果、英彦山の歴史を学べ、非日常の空間に身を寄せることができると、県内外から応募が殺到するほどの人気イベントとなりました。そのほかにも、夕日に照らされ黄金色に染まる参道を鑑賞する「天空の灯火」や英彦山の紅葉を見ながら秋の美味しい味覚を楽しむことができる「英彦山参道マルシェ」など、1年を通して楽しむことができる新たなイベントの実施にも挑戦。どのイベントも多くの人が訪れ、英彦山に活気を取り戻すことに成功しました。



▲色鮮やかな紅葉に囲まれ開かれた英彦山参道マルシェ

こうした協働の活動を高山さんは「無理なく続けられることが一番。会員の負担にならず既存のイベントや物を活用し、最終的には自走できるようになれば」と力強く話してくれました。

また、松養会長も「一緒に活動できて本当に助かっている。今後も協働で英彦山の活性化につながるイベントを一緒に開催していきたい」と地域おこし協力隊との協働実施を希望しています。



▲互いに家族のような存在と話す松養さん(左)と高山さん

現在の課題は、担い手不足。会員は少なくないものの遠方に住んでいる人もいるため、中々集まるのが難しいとのこと。その他の地元団体とも協力しながら若い人にも会の取組を知ってもらい、担い手不足を解消したいと話します。

新たな形で活性化に取り組むこととなった英彦山門前町同好会。その効果は着実に発揮され、英彦山を未来へ引き継ぐための一歩を踏み出し始めました。

## 住民の手で作り上げた日本一のアジサイランド

～枝川内あじさい祭り実行委員会(豊前市)～

福岡県の東南端、大分県との県境に位置する豊前市。北は「豊前海一粒かき」や「ヨシエビ」など新鮮な海の幸が獲れる周防灘に面しており、南は修験道で知られる国指定史跡の「求菩提山」や国指定天然記念物ツクシヤクナゲが自生する「犬ヶ岳」があるなど、海と山に囲まれた自然溢れるまちとして知られています。

四季折々の魅力を堪能でき、多くの観光客が訪れる豊前市では、6月中旬になるとひと際賑わう場所があります。そこは、約1万6千本のアジサイが咲き誇る枝川内区です。枝川内区は起伏に富んだ細長い谷にあり、一步入ると入り口から約2kmにわたり、色とりどりに咲きそろったアジサイが出迎えてくれます。

実はこのアジサイ、元々自生していたわけではなく、枝川内区あじさい祭り実行委員会のみなさんが1本ずつ丁寧に植樹をし、大切に育てたアジサイなのです。



▲色とりどりのアジサイが出迎えてくれる

### 自分たちの手で守る

今では多くの人々が訪れ賑わう場所となった枝川内区ですが、実情は人口39人・高齢化率は74.35%と、豊前市でも過疎化が進行している地域です。この地域がなぜここまで有名なスポットとして取り上げられるようになったのか。そこには住民たちの地域活性化への思いと決して諦めない気持ちがあったからでした。

枝川内区はもともと人口が少ない地域だったため、昔から交流を絶やさず、コミュニティを衰退させないよう、住民自ら積極的に交流会を行っていました。

そんな中「寂しくなった農村風景を変えたい」という意見があがりました。そこで、平成11年に校区の現状や問題点、将来どうしたいかなどを話し合い「共存共栄のむらづくり」を目指すことにしたのです。

まずは、高齢化や農業離れなどによって荒廃しかけた約10ヘクタール(※2)の農地整備を、住民一丸となって着手することにしました。



▲整地前の枝川内区の様子

そして、新聞などを活用して多くの人々に参加を呼びかけ、整地された場所にアジサイの苗を植えました。苗が大地に根を張り、枝葉が育ち、花が咲くまで丁寧に守り育てた結果、アジサイが華やかに咲き誇る市内屈指の人気スポットへと変化したのでした。



▲綺麗なアジサイに囲まれ、こぼれる笑顔

(※2) 10ヘクタール  
1000メートル × 1000メートル ≒ 10ヘクタール  
東京ドーム約2個分の面積

## ■ 枝川内あじさい祭り実行委員会(豊前市)

### アジサイがつなぐ交流の輪

枝川内あじさい祭り実行委員会は、枝川内区の全住民が会員。主な活動は、アジサイの剪定・管理やアジサイを活用した地域の再生ですが、その他にも森林セラピーなどを行うグリーンツーリズムのほか、そば・ユズといった地元の特産品の生産・加工・販売など、さまざまな方法で地域活性化に取り組んでいます。こうした活動は、地元を離れた若い人の耳にも届き、地域づくりに参加するために帰省する人が年々増えているそうです。



▲イベントは多くの人々が訪れ大盛況

同会の奥本隆己（おくもと たかみ）事務局長は「ここまで続けられたことは、枝川内区のみなさんのお陰。高齢でも経験は若い人には負けていません。いろんな分野の人がいる中で、その人たちの力を出していけば、地域づくりはできる」と力強く話してくれました。

また、会員をけん引する宇都宮秀充（うつのみや ひでみつ）会長は「この活動はみんなが結束して、一つのことによって一生懸命取り組んでできている。今後も多くの人に訪れてもらいたい」と活動への思いを語ってくれました。

### 日本一への挑戦はつづく

目標は「日本一のアジサイランド」。小さなきっかけが、大きな成果へと変化した枝川内区。若い担い手不足が課題となっている今、継続していくためにも行政の支援が必要と話します。

課題を抱えながらも、自分たちの手で地域を守り、活性化に向け取り組んでいる同会。いつも話しあう集会所からは笑い声が絶えません。「今後もできることを少しずつやっていきたい」と話す会員のみなさんの横顔は笑顔で溢れていました。



▲アジサイに囲まれ食べるご飯は最高と評判



▲枝川内あじさい祭り実行委員会のみなさん

## 県庁お知らせ掲示板



### 安全・安心まちづくり団体事業補助金

～防犯活動を始める団体に補助します～



子どもの見守りや「ながら防犯」に取り組むために必要な経費の一部を補助します。(既に防犯活動を行っている団体が、その活動を拡充させる場合にも支給の対象となることがあります)

#### ▶対象団体

自治会、PTA、ボランティア団体など

#### ▶対象経費

帽子、ジャンパー、のぼり旗等防犯活動用品の購入費など

#### ▶補助金の額

1団体あたり10万円を上限



生活安全課 092-643-3124